

ひまわりからの メッセージ

174号

2026. 6. 8

NPO ひまわりの花内
西濃圏域
発達障がい支援センター
発行人：中野たみ子

梅雨入りを 前に……



五月の下旬に小学校の同窓会がありました。私達のクラスは学年一クラスで四十六名、今では考えられない人数です。すでに鬼籍に入った人が十六名、当日の出席者は十八名でした。何十年ぶりに会う友は、それぞれの人生を生きてきたんだなあと、その重みを感じさせられました。思い出話に盛り上がりましたが、そんな中で今の社会の生き難さも話題になりました。昔は大人ももっと大らかで、私たちが学校帰りに寄り道したり、いたずらしたりしても、人に危害を加えることさえなければ許されることも多く、「あんなことがあったっけ……」と、皆、いつの間にか小学生の顔に戻っていました。

会の終了後、その中の一人が「以前見た君の本の中に徳源

院のことが書いてあったけど……」と言うのです。徳源院というのは、柏原にあるお寺で、私が好きな無住寺です。京極家の墓所があります。一般に余り知られていないお寺なので、何故知っているのかと不思議に思ってたずねてみると、「実は、京極家の末裔なんだ」と言うのです。それには驚きました。

今、NHKで豊臣兄弟を放映していますが、信長の妹のお市の方が、浅井長政との間にもうけた三人の娘のうち、長女は秀吉に、次女は京極家に三女は徳川秀忠に嫁ぎました。今後、ドラマの中でもそんな話が出てくるかもしれません。

徳源院には佐々木道誉の手植えと伝わる桜があり、春は桜が咲き、新緑の頃には楓の若葉が美しく、私は、下から空を見上げては、黄みどりの葉の重なりを鑑賞したものです。晩秋ともなると、本堂から墓所に至る道にはいちじくの葉が、まるでじゅうたんの様に一面に黄葉の道を作ってくれるのです。そういえば、もう十年位訪れていないので行ってみたいと思ったのですが、山の中で熊に遭遇するの怖いと思い直し、あきらめました。

でも友人のお蔭で、遠い歴史のことを思い出すことができ、忙しい日々の中でふと豊かな心の時間を持つことができたのです。

人は興味をもつと、そのことについて深く知ろうとするものです。若い頃に歴史のことに血道をあげていた日々を思い出し、子ども達も色々なことに興味をもって人生を豊かに生きていくくれると良いなあと思ったことでした。庭先に紫陽花が咲いています。

知的障害 (知的発達症)とは？

皆さんは、知的障害について、どの様にお考えでしょうか。

実は、昔は精神薄弱とか精神遅滞といった差別用語で呼ばれていて、IQ(知能指数)の値によって判断されていました。

しかし、最近では、知的発達症と呼ばれていて、アメリカ精神医学会(DSM-5)や世界保健機構(WHO)では、IQのみで判断するべきではないと定義づけられています。それは、

①成人にならず発症するものでなく発達期(おおむね十八歳)までに発症する ②抽象思考や問題解決、学習など知的機能の障害がある ③概念的、社会的スキル、対人関係、身の回りの管理などその人の年齢や文化で期待される適応機能が基準に達していない という三つの障害によって日常生活をしていく上で特別な支援が必要であるということになります。

昨今では、少子化に伴う高等学校の定員割れということもあって、知的学級から高校進学というケースも増えてきているようです。では、幼児期や小学校時代に見られた知的認知の発達の遅れは、何年後後に健常児といわれる子どもの発達と同じになるかと言いつと、決してそうはなりません。むしろ年齢

が上がるにつれて、その差は広がっていくと考えるべきだと思います。

しかし、私も幼児期に知能検査をした折に、明らかに知的発達の遅れのあるお子さんの保護者に「お子さんは発達がゆっくりですね」と告げたこともあり、学校の先生の中には「少数で学べば(知的学級から)通常学級に戻れますよ」とおっしゃる方もあり、保護者の方に「いつかは皆と同じになるのだ」という誤った認識をさせてしまっていることがあるのではないかと思います。そしてそのことが、せめて高校卒という資格を取らせたいという期待につながって、高校というより高度な知的学習をその児に強いてしまい、結局単位がとれずにやめざるを得ない状況に追い込まれたり、……言葉の重みという責任のあり方について考えさせられることが多くあります。

知的発達については先述したように学習等の困りは当然あるでしょうが、では、適応機能ということに関しては、どのように考えていくといいでしょうか。

以前、知的学級で行われていた生活単元学習というのは、知的発達の遅れを伴う子ども達が将来自立していくための生活面での指導でもあったと思います。知的学級

は情緒学級と異なり、生徒一人ひとりの実態に合わせて個別の指導目標が立てられるのでしうが、実際には、その児童生徒の学年の教科書が使われていたり、逆に幼児期の活動のようなことが行われていたりして驚かされることもあります。けれどもそれが、特別支援学級での学びの難しさと言えるのかもしれませんが。

ただ、私たちは、常に子ども達の未来にも目を向けて、単に「保護者が希望するから……」と、自身が責任回避することなく、真摯に親子に向き合っていく覚悟も必要だと、最近の私は強く思っています。

WISCの検査で わかること、わからないこと

さて、教育支援委員会の日程が近づくにつれて、色々な方面から検査依頼があります。ウェクスラー検査もTVからVへと改定されましたが、WISC検査で何でも分かるわけではありませんので、少し検査について述べておきます。

私の所は、まだTVの用紙があるため、全員をVにしているわけではありません。どちらも知能検査ですからFSIQ（知能指数）が算出されますが、大事なのは、下位検査から導き出された指標間に大きな差があるかどうか、あるとすれば今後どの様に配慮していった

う良いかを探っていくことにあります。

IVでは、言語理解、知覚推理、ワーキングメモリー、処理速度という四つの指標を比較していましたが、Vでは、知覚推理指標が視空間と流動性推理に分けられて、五つの指標になったこと、ワーキングメモリーがIVでは聴覚的なものだったのに対してVでは視覚的なものも加わったことが大きな変化です。そして、この改訂にはCHC理論という知能モデルが基になっています。CHCというのは、キャッテル、ホーン、キャロルという三人の頭文字をとって命名されたもので、興味のある方はぜひ詳しく調べてみて下さい。

WISC-Vでわかること

- ① 知的水準
全検査IQ (FSIQ) で知的水準がわかる。
- ② 認知特性や偏り
認知する時、見る、聞くどちらが強いか。
- ③ 困りについての能力的な原因
本人や周りの大人が感じている困りに対して能力的な部分で原因を明らかにする。

WISC-Vでわからないこと

- ① 生活の適応水準
コミュニケーション、日常生活スキル、社会性、運動能力など
- ② 障害に特化したこと
ASD、ADHD、LDなど障害の有無や程度
- ③ 問題行動の直接的な原因
周りへの攻撃、虚言、不登校などの原因

WISCの検査をすれば何でも分かると思ってしまう方もあるようです。参考までに記しておきました。

WISC-Vでわからないことの①の生活の適応水準については、知的発達症の定義づけの一つでもあります。WISCでわからないのであれば、どんな検査でわかるのでしょうか。それはVineerのII（バイブランド）適応行動尺度という検査です。対象年齢は0～9歳までのほぼ全員が対象となります。

領域は、コミュニケーション領域、日常生活スキル領域、社会性領域、運動スキル領域、不適応行動に分かれています。この領域の中で知能と関連するものは、コミュニケーション領域のみで他は、日々の生活に必要なスキルで根ざした項目で、必要な時に正しい行動がとれるかどうかの評価になります。

適応行動は、当然年齢と共に上昇しますが老年期では機能低下も見られることから、その評価もできるように工夫されています。

さて、WISCではわからないASDやADHDなどに関しては、どんな検査があるでしょう。これはCARS2やConnersなどがあって、児童精神科などでは、こういう検査も用いながら診断名をつけておられるのです。

7月の予定

- 1日：教育センター講話
- 3日：すぎの子園相談会
- 6日：ひまわり学園 園内研
- 7日：ピアサポート
母井子ども子育て会議
- 8日：県保育研究協議講話
- 9日：青墓(こ)親向け講話
- 13日：センター親の会
- 15日：療育スタッフ研(池田町)
- 16日：医療的ケア部会
- 21日：大垣言語研修
- 22日：発達支援学習会
強度行動障害
- 23日：ケース検討会
- 24日：海津支援員研修

母井教育支援(季)
大野町巡回(1, 2, 3, 6, 14, 22, 24, 28, 29, 31)
大垣教育相談、校内研修会など

現在子どもに実施できる知能検査は、田中ビネー知能検査VI、KABC II、DNICA Sなどがあり、KABC IIでは学習の習得度も測ることができます。知能検査以外に発達検査といわれるものがあり、その一番有名なのは新版K式発達検査といわれるもので、DQ(発達指数)が算出されます。発達検査は知能検査とは異なるために、数値の差も大きく、その点を考慮して保護者に伝えるべきだと思われまふ。いづれにしても検査は数値を出すのが目的ではなく、子ども達の指導や今後に生かしていくものでなければならぬと思います。ですが公認心理師としても言語聴覚士としても、まだまだだと反省せざるをえない毎日です。今日、梅雨入りが発表されました。子ども達の苦手な季節です。皆で支えていきたいですね。